

教育懇談会の概要

【日 時】 令和 7 年 7 月 9 日（水）

【訪 問 先】 庄内総合支庁分庁舎 2 号会議室（13:20～15:00）

（教育委員の主な発言内容）

- ・全国学力調査の数字を上げる方策の一つとして、教職員が出題の意図を確認し、児童・生徒に指導することが大切と考える。児童・生徒が同じ学力を持っていても出題の意図を理解できている場合とそうでない場合では、点数は異なってくるものと考えられる。問題を解く学力を持ちながら、それが数字に反映されないのはもったいない。出題の意図を考慮に入れながら学習指導を行っていくことが効果的ではないか。（手塚委員）
- ・本県は I C T 活用において全国と差があると考えられる中で、午前中に訪問した朝陽第五小学校のように A I ドリルの活用に取り組んでいる学校もある。教職員がいなくとも子どもが自ら問題を解くことができるため、このような A I ドリルなどの活用が学力向上につながるのではないか。
また、学校における様々な取組事例の共有について、学校の中では行っているが、これを市町間でも行ってはどうか。成功事例だけでなく失敗事例も含めて共有していけば、教職員の視野が広がり、効果的と考える。（丹治委員）
- ・デジタル機器を活用し、子ども達の学びの定着を図ることは学力向上に効果的である反面、教職員が最新の機器を使いこなすために講習を受けるなどの負担感の増加も懸念される。教職員の負担を減らす講習の工夫やデジタル機器やソフトの統一化などにも配慮する必要があると感じる。（和田委員）
- ・学校で学んだことが自宅での学びにも結びついていかないと学力向上にはつながらないのではないか。近年はタブレット等のデジタル教材により、家庭でも効果的な学習に取り組める環境があるため、学校における取組みはもちろん、家庭での学びを伸ばす取組みに力を入れていくべきで

はないか。（工藤委員）

- ・なぜ学ばなければならないか、学ぶことによって何が得られるのかということ、子ども達に教えていかなければならないのではないか。子ども達の学習に対する動機付けが必要であり、自主的に学習していく方向に導いていくことが、教職員の人材が不足している中で学力を向上させるポイントであると考えます。（小関委員）